

環境・安全報告書 2016



**ASAHI
YUKIZAI**

1. 環境・安全に対する基本姿勢

環境・安全に関する経営方針

当社では、環境・安全に関する経営方針を定めており、その方針の下、環境・安全に関する目標を定め、達成に向けて社員一丸となって取り組んでいます。

理 念

当社は、環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

方 針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

- 環境保全活動の推進

製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。

- 安全衛生活動の推進

安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。

- 健康の保持と増進

快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。

- 保安防災活動の推進

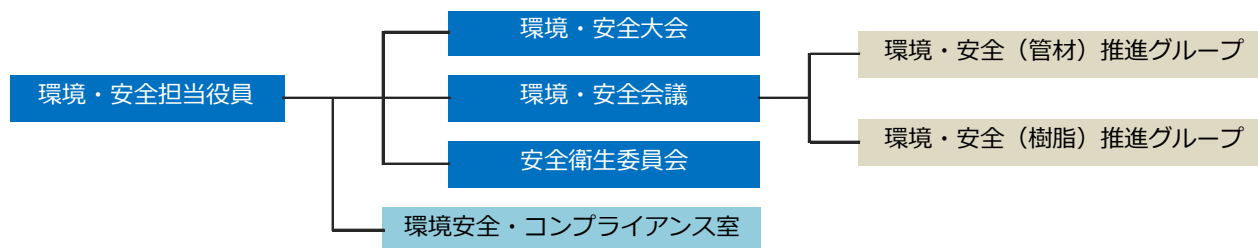
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。

- 製品安全の確保

製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

環境・安全に関する社内推進体制

当社グループでは、環境・安全担当役員の下、「環境・安全会議」を設置し、グループ内の環境・安全活動を統括しています。また、環境・安全担当役員は環境安全・コンプライアンス室が実施する環境・安全監査を指揮しています。



環境・安全に関する中期重点課題

当社グループでは、「環境・安全に関する経営方針」の下、2013～2015年までの中期重点課題を掲げました。
中期重点課題に沿ってそれぞれの環境・安全に関する目標を設定し、取り組んでいます。

項 目	中期重点課題
環境保全	① ゼロエミッションに向けた取り組み ② 地球温暖化防止対策活動（エネルギー原単位とエネルギー起源 CO2 排出量の削減） ③ 環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減 ④ 地域貢献活動の推進
化学物質	① 生産活動における有害化学物質の適正な管理 ② 化学物質による環境負荷の低減 ③ 製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃
安全衛生・健康	① 5S 活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進 ② リスクアセスメントによる設備・機械の本質安全化の追求 ③ 管理監督者の率先垂範による自主的な安全活動の実践 ④ 日常的な安全活動「教育、HH・K（ヒヤリハット・気がかり）、KYT（危険予知トレーニング）」、健康保持増進等の推進
保安防災	① 安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上 ② 主要拠点での事業継続計画（BCP）の構築 ③ 緊急時のための効果的な実地訓練の実施

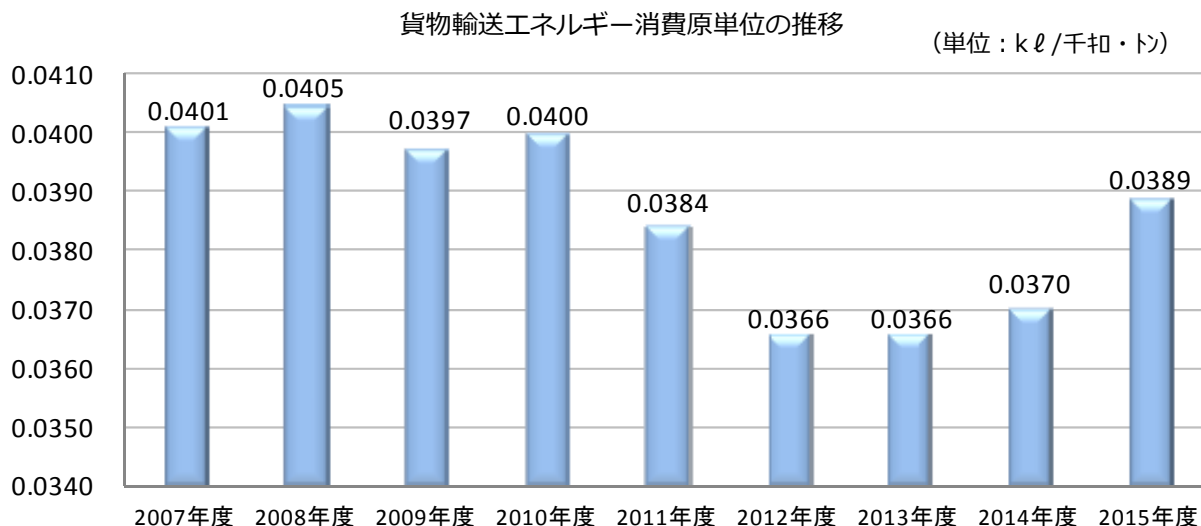
2. 環境保全への取り組み

(1) 地球温暖化防止

貨物輸送エネルギー消費原単位の削減

当社は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法）において、「特定荷主」に指定されていることから、中長期目標として貨物輸送エネルギー消費原単位を 2007 年度基準として前年度比 1 %以上低減することに取り組んでいます。2015 年度は 2007 年度比で 8%減を目標としていましたが、実績は 3%減と達成することができませんでした。これは、当社の輸送量の多くを占める樹脂事業製品の需要が減少したことにより、その輸送手段である大型貨物トラックの積載率が低下したことが主な要因です。

来年度は省エネ法の特定荷主に課せられた義務を果たせるよう、物流効率の改革に努めます。

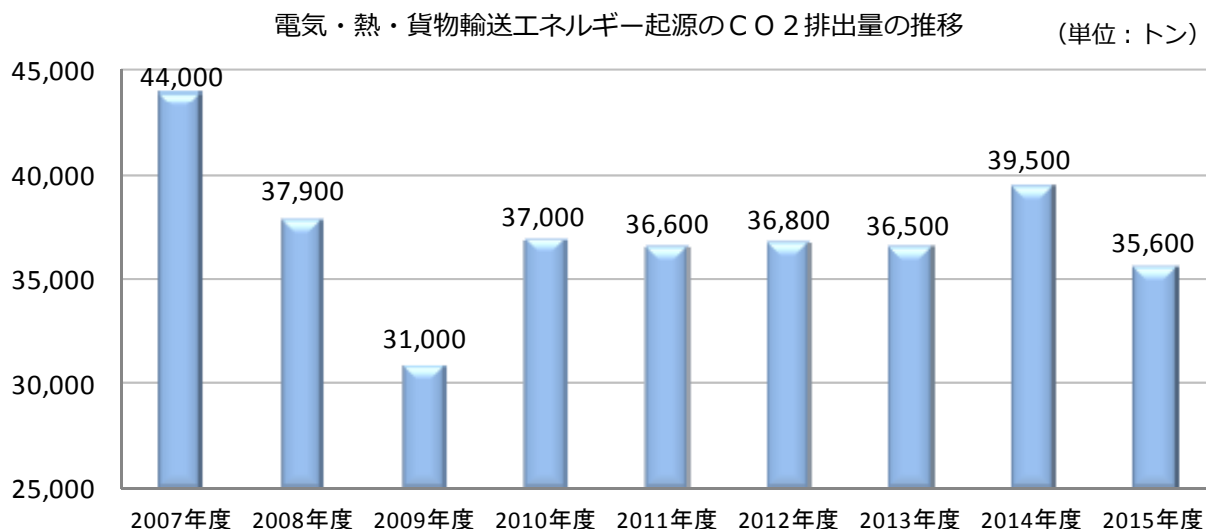


※ 省エネ法における「特定荷主」とは、年間輸送量が 3,000 万 [トンキロ] 以上となる事業者であり、輸送エネルギー使用に係る省エネの計画作成や結果報告を行うことが義務付けられています。

また、すべての荷主は国から、貨物輸送に係るエネルギーの使用の合理化基準の遵守と中長期的にみたエネルギー消費原単位の年平均 1 %以上低減への努力が求められています。

電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO₂ 排出量の削減

2015 年度の省エネ法に基づく当社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO₂ の排出量は、当社目標である 41,500 トンに対し、実績は 35,600 トンと、この数年では最も低い排出量となりました。今回、環境省の「CO₂ 削減ポテンシャル診断」を受診し、その結果を受けて設備に使用する燃料の油種変更や高効率な設備への変更、および自治体主催の CO₂ 削減施策への取り組みなど、積極的な省エネ活動が有効に機能した結果であります。

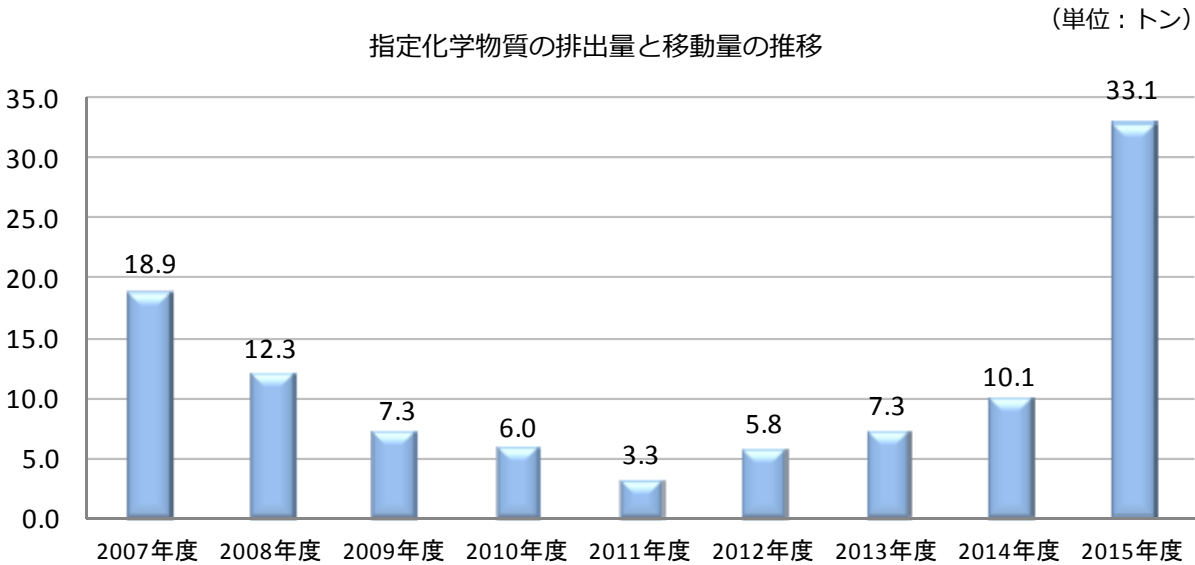


(2) 環境保全

指定化学物質の排出量、移動量およびその低減対策

化管法により指定されている化学物質の当社における排出量および移動量は、当該化学物質を含む樹脂事業製品の生産量の伸びとともに 2012 年度以降増加傾向にあり、2015 年度の増加が顕著となりました。これは樹脂事業製品の不回転在庫を産業廃棄物として処理したことが主な要因であり、一時的な増加であります。

当社は、環境負荷化学物質を含む原材料を、より環境負荷の小さいものへ切り替えを進めており、今後も環境負荷化学物質の排出量・移動量の削減に努めます。



※ 化管法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

P R T Rに基づき当社が管理している指定化学物質

製造所・工場	指定化学物質名称
管材製造所	有機スズ化合物、鉛及びその化合物、アンチモン及びその化合物、ヘキサメチレンテトラミン、フェノール、ジシクロペンタジエン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート
愛知工場	亜鉛の水溶性化合物、ビスフェノール A、クメン、クレゾール、1,4 ジオキサン、ヘキサメチレンテトラミン、トリエチルアミン、1,2,4 トリメチルベンゼン、1,2,5 トリメチルベンゼン、ナフタレン、フェノール、ホルムアルデヒド、メチルナフタレン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート、リン酸トリ-ノルマル-ブチル、エチレングリコール、DMF、ダイオキシン類
栃木工場	ヘキサメチレンテトラミン、亜鉛の水溶性化合物、有機スズ化合物、ダイオキシン類
広島工場	ヘキサメチレンテトラミン、ダイオキシン類

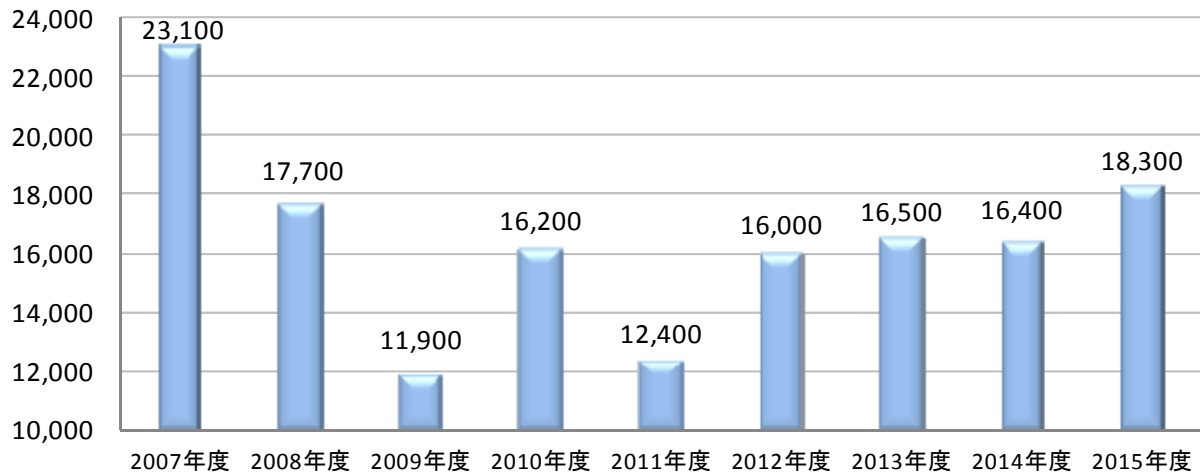
※ PRTR とは、化管法により指定されている化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

産業廃棄物の総排出量

当社は、産業廃棄物を削減するための代表的な取り組みである4R（抑制・削減・再利用・再資源）により、産業廃棄物の総排出量の削減と発生した産業廃棄物の有効利用に努め、さらには総排出量から単純（埋立）処分される産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）を推進しています。2015年度は、当社目標値16,100トに対し、実績は18,300トでした。目標未達となった主な要因は、一過性の廃棄によるものであり、今後増えないように対応します。

産業廃棄物の排出量の推移

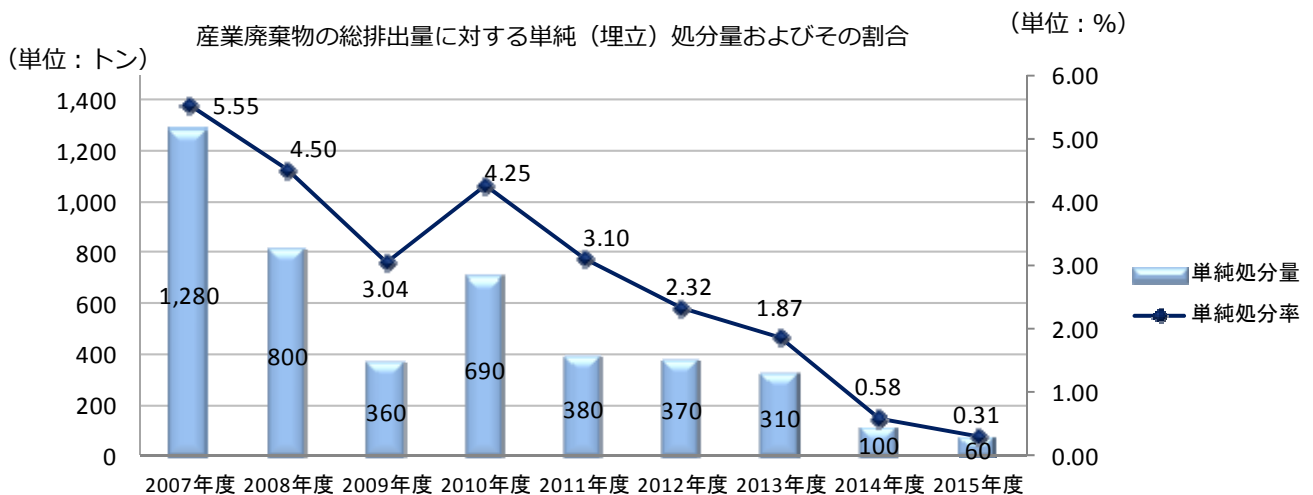
（単位：トン）



産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量およびその割合

2015年度の産業廃棄物の総排出量は目標に対し大幅に増える結果となりましたが、単純（埋立）処分量および産業廃棄物総排出量に対するその割合、ならびにその低減等に向けた当社の主な取り組みとして、産業廃棄物を細かく分別することで可能な限り有効利用することに努め、処理する場合は焼却処分するなどした結果、単純（埋立）処分の割合は5年連続で前年実績よりも低く抑えることができました。

産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量の割合を今後も1%以下に抑えるように努めます。



環境省が主催する「Fun to share」への参加

当社の樹脂事業は自動車産業と密接に関係していることから、環境省が推進する低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」に愛知工場が参加しました。「従業員全員参加で、低炭素社会へ」を宣言して、事業活動に関わる従業員全員が省エネの重要性を理解し、月1回の省エネ会議で方策を出し合い、省エネ文化を浸透させています。

1.第一は無駄をなくす。

- (1) エアコンの設定は、冬 20℃・夏 28℃
- (2) 離席時照明消灯
- (3) 設備の無駄運転の排除

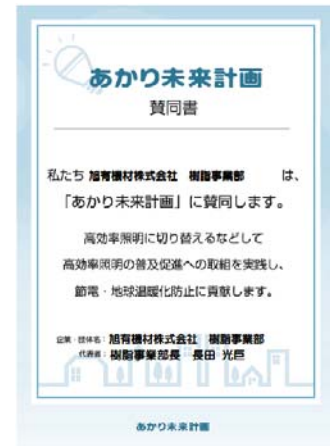
2.第二は設備などの省エネ対策

- (1) LED の推進
- (2) 設備の高効率化と効率運転化

3.その他

- (1) クールビズの実施
- (2) ウォームビズの実施

※中でも LED の導入は積極的に行い、省エネに貢献しています。



愛知県主催の「あいち CO2 削減マニフェスト 2020」への参加

愛知工場では愛知県が策定した「あいち地球温暖化防止戦略 2020」の一環として県内事業者に向けた CO2 排出削減の取り組みに賛同し、県が認定・PR する「あいち CO2 削減マニフェスト 2020」の認定制度に 2015 年度より登録しています。

事業者として自主性や創意工夫を活かした CO2 削減の取り組みを宣言し、削減目標の達成に向けて継続的に取り組みランクアップを図っています。

2015 年度はエネルギー原単位で 1.34%減を達成しました。

来期ランクアップを目指し、取り組んでいきます。



平成 27 年度宮崎県温室効果ガス排出抑制事業者表彰

延岡地区において、老朽化した射出成形機を省エネタイプへの設備更新、建屋照明の LED 化、太陽光発電の活用、ゆうきの森植樹などの環境保全活動が認められ、平成 27 年度「宮崎県温室効果ガス排出抑制事業者表彰」を 12 月 22 日に受賞しました。

また、平成 28 年 2 月に開催された県の「事業者向け省エネセミナー」においては当社の省エネ活動に関する事例を発表し好評を得ました。

3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み

(1) 労働災害

当社グループの労働災害発生件数

2015年通年の労働災害の発生件数は、ここ数年で最も悪い結果となりました。

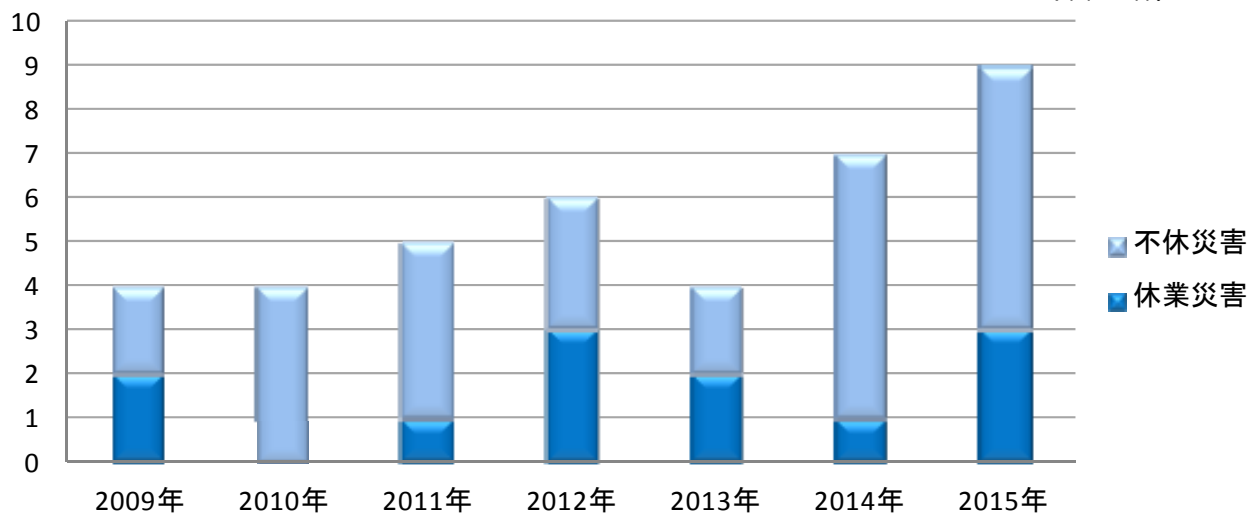
当社グループでは、事故・災害撲滅のため、日常より全ての社員が高い安全意識を持って行動し、業務を遂行することとし、安全の基盤である5Sの推進、管理監督者の率先垂範による安全活動の実践、および指差呼称の励行などに取り組んでいます。今後も継続して安全活動に取り組むことにより、労働災害の撲滅を目指します。

(単位：件)

		実 績 値						
		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
休業災害発生件数	単 独	0	0	1	2	1	1	0
	グ ル ー プ 会 社	2	0	0	1	1	0	3
	連 結 合 計	2	0	1	3	2	1	3
不 休 災 害 件 数	単 独	0	3	3	2	1	6	5
	グ ル ー プ 会 社	2	1	1	1	1	0	1
	連 結 合 計	2	4	4	3	2	6	6
休業災害度数率	単 独	0	0	0.63	1.25	0.66	0.65	0
	連 結 合 計	0.90	0	0.35	1.34	0.93	0.46	1.05
	(参考)製造業平均	—	0.98	1.05	1.00	0.94	1.06	1.06
全 災 害 度 数 率	単 独	0	1.97	2.53	2.50	1.31	4.52	3.30
	連 結 合 計	1.91	1.81	1.74	2.69	1.86	3.22	3.14

旭有機材グループ労働災害の推移

(単位：件)



(2) 安全活動の取り組み

組織変更による安全活動の強化

2015年4月に事業部長直轄の組織として環境・安全推進グループを設置し、これまでの製造所・工場が中心であった安全活動を営業所まで含めた事業部体制を整えました。近年、営業車による交通事故が増えていることもあり、交通安全教育に取り組み、交通事故防止に努めています。

環境安全大会

2016年3月4日、当社愛知工場にて第12回全国環境・安全大会を開催しました。

今回の大会では、社長、環境・安全担当役員ともに2015年通年に発生した労災の現状を深刻に受け止めており、労災を発生させないように緊張感を持たせる仕掛け、管理監督者率先垂範による不安全行動防止および一人ひとりの危険に対する感性の向上などを社員に求めました。

また、昨年に引き続き実施しました経営者幹部によるパトロール、事務所女性社員による製造現場パトロールの結果発表、安全活動に関する表彰部署による事例発表や外部講師としてJAF愛知支部の方をお招きした「事故事例を基にした“危険予知の考え方”を学ぶ」と題した講義など、安全活動をより意識させ活性化する機会となりました。



環境安全大会

経営幹部による安全査察

2015年4月から6月にかけて、「整理・整頓・清掃活動の進捗」をテーマに国内工場を社長が査察しました。社長からは、各工場とも整理・整頓が進み、安全活動が向上していることは確認できたが、より一層整理・整頓を進めて安全で効率的な職場にするように社員へ求めました。

また、11月と12月には事業部長による安全査察も実施しました。



社長安全査察（栃木工場）



管材システム事業部長安全査察（管材製造所）

安全教育の実施

製造所の若手社員約50名を対象に、リアルな経験することで危険に対する感性を鍛えることを目的として、危険体感研修を実施しました。また中堅社員約60名には、安全の基礎知識、人間の行動パターン、安全見直しの技術など安全に関する実務的教育を実施し、スキルアップを図りました。今後もこれら研修を継続し、全社員の安全に対するレベルアップを目指します。

（3）社員の健康促進

当社のメンタルヘルス活動

社員の心が健康に保たれるように、メンタル不全の予防、兆候の早期発見およびその対処、また、正しい知識の習得などを目的として、当社の産業医かつ本分野の権威である医学博士を外部講師として毎年招いて、全国主要拠点にて講演会を実施しています。

2015年度は「職場のヘルスケア」と題して、メンタルのセルフケアの大切さやメンタル不全の特徴など、事例を紹介しながら正しい知識の習得のための講義が行われました。



（医学博士による講演の様子）

4. 製品安全への取り組み

製品安全に関する基本方針

当社グループは、経営理念のひとつに「お客様の信頼が命です」を掲げ、お客様に信頼され、満足していただける製品・サービスの提供に努めています。より優れた、より安全な製品・サービスの提供を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することをめざしています。

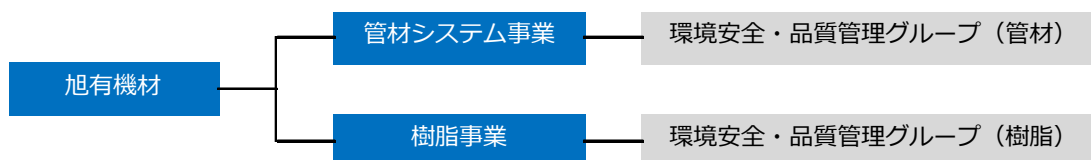
製品安全に関する基本方針

顧客の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人間の幸福と社会の発展に寄与する。

- 顧客の立場で製品を開発すること
- 技術を錬磨し、品質管理を徹底して、ものづくりをすること
- 製品を正しく安全に使っていただく営業を実践すること
- 製品がその効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること

製品安全について

当社は、事業部に環境安全・品質管理グループを設置し、ISO9001の品質マネジメントシステムをベースに品質保証・製品安全体制を構築し、お客様のお役立ちを第一に考えるものづくりに取り組んでいます。管材システム事業部において、新製品開発時は4段階のDR（設計審査）を経てリリースしています。新製品の設計要件には「製品の欠陥により、他人の生命、身体および財産を侵害する恐れがないか」を考慮し、法令遵守、設計上の欠陥、製造上の欠陥、表示の欠陥を予防しています。また、既存品についても変更管理を徹底しており、工程変更や設計変更が生じた場合には、変更を実施する前に品質への影響を評価し、品質が維持・向上できることを確認した上で変更を進めています。



内部品質監査によるチェック

当社は、内部品質監査をISO9001認証取得した1995年から20年以上継続しており、近年はISO9001の要求事項に適合していることは当然のこととして、プロセスアプローチを重視した監査を行っております。プロセスの監査は、会社の方針に沿って計画通りの業務が実施され、意図した結果が出ているか、狙った結果を出せるような業務手順になっているか、前工程・後工程との情報の受け渡しがうまくいっているかなど、より良い品質保証体制の確立を目指したものとなっています。

5. 地域・社会との調和

当社グループは、「法と社会規範を守り、社会と共に歩みます」の経営理念のもとに、積極的に地域との交流活動を行っています。

地域ぐるみの防災活動

延岡工場は、津波が発生した際の避難先として工場2棟の屋上が延岡市から指定されています。地域住民の方に広く知ってもらえるように、11月27日、地域住民参加型で震度5以上の地震および大津波を想定した避難訓練を実施しました。住民の方からは、「万が一の際の避難経路やどれくらいの体力が必要なのかが分かった。」との声が上がりました。

また、愛知工場では、2月7日、地元の消防、警察、役場、総合病院、看護学生ら総勢100名規模による合同災害対策訓練を実施しました。学生が当社工場を見学中に火災が発生したとの想定で、消防車、はしご車、救急車を使用し、救助活動では、敷地内広場に集められた負傷者の大規模災害時における治療の優先順位を決める「トリアージ」の実施や屋上から要救助者をヘリコプターで実際に吊っての救助など、本格的な内容で訓練が行われました。



消防車、はしご車、ドクターカーなど20台近く参加



救助者のトリアージ状況



ヘリによる屋上救出



高い階は、はしご車で救助

講師派遣による講演会の実施

地域を育む社会貢献の一環として、講演会へ講師として社員派遣を行っています。2015年度は11回派遣し、高校生向けに「進路選択に臨む皆さんへのメッセージ」、教職員向けに「企業から見たキャリア教育」など対象世代は幅広く、企業目線による教育と進路についてメッセージを発信しました。



講師を務める当社社員



第9回「ゆうきの森」植樹活動（4月2日開催）

当社では宮崎県が取組んでいる「企業の森づくり」に参画し、2008年から毎年、延岡市北方町で「ゆうきの森」の植樹活動を行っています。9年目となる今年は、施肥作業、遊歩道作り、かずら切りなどで森を整備しました。その後、椎茸の栽培体験として長さ1m程度に切断した広葉樹の原木にいくつかの穴をあけ、そこに椎茸の種菌を打ち込みました。

「ゆうきの森」では10年間で吸収する二酸化炭素は約158トンと試算されています。

面積：3.00ha 広葉樹 2.5ha、スギ 0.2ha、ヒノキ 0.4ha



全員集合



2016年の新入社員たち



椎茸のコマ打ち体験

当社主催によるスポーツ大会開催

愛知地区では、「旭有機材杯」として、毎年、ソフトボール大会、レクバレー大会を主催しています。近隣地区（扶桑町、江南市）の方々が参加し、今回はレクバレー大会（第32回）に4チーム、ソフトボール大会（第38回）に16チームにより、白熱した戦いが繰り広げられました。

